科学 MONDAY

2011年9月26日（月）讀賣新聞　科学欄

◆京都大がマイクロ化学の共同研究体　指先に載るほど小さな装置内で化学反応を起こし、目的の物質を合成する技術「マイクロ化学」について、京都大が共同研究体を設立した。

マイクロ化学は1990年代から研究が進められてきた。原料の混合や熱交換が高速で行えるため、副生成物ができる前に反応を進めたり、発熱の大きな反応を制御したりできる。医薬品や化粧品の生産などでの展開が有望視されている。

共同研究体には化学系企業など19社、産業技術総合研究所などが加盟。次世代プラントや製造法の実用化、事業化などに取り組む。代表の吉田潤一・京大教授は「省資源、高い安全性を同時に達成する革新的な技術になり得る。21世紀の化学産業をリードしたい」としている。